

# 令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立けやき台小学校
-----	-------------

## 1 学校教育目標

夢に向かって 堂々と歩む子の育成  
～あきらめず挑戦し 自尊感情を高めるけやきっ子～  
元気で明るい子・やさしく素直な子・興味を持ち、伝え合って学ぶ子  
けやきの A(エース)をめざせ

## 2 今年度の学校重点目標

- わかる授業づくり
  - ・めあてとふりかえりを大切にし、子どもの相互表現で創る授業
  - ・ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善
- 楽しい学校づくり
  - ・学級経営の充実
  - ・特別活動(児童会活動・学級活動)を重視
  - ・自主性と主体性の育成 居場所づくり
  - ・自尊感情の高揚と人権感覚 学校集団の育成
  - ・多様な教育的ニーズに応じた教育の充実

## 3 総合的な自己評価

今年度の結果と共に2年の経年比較を行いながら分析した。

今年度の三者それぞれのアンケート結果も、ほとんどの項目で肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の値が目標値の80%を大きく超え大変良好であった。その中において、職員アンケートの「年間計画・学校行事」「あいさつ」「読書」と保護者アンケートの「読書」に関する結果のみ、80%を下回る結果となった。

「あいさつ」に関しては、本校の学校目標の一つでもある。児童評価が89%、保護者評価が85%職員評価54%の肯定的評価であった。本校の児童は、「あいさつ」ができるようになってきている。今年度、さらに「校内でも、お互いあいさつができる学校に」という新たな目標をもうけて取り組みだした。来年度以降も、校内であいさつがあふれる学校にしていけるよう取り組んでいきたい。

「読書」については、教員、本校の課題として取り組んでいる。今年度は、「家族読書の日」に加え、毎学期「読書ウィーク」を設定し取り組みを行った。残念ながら肯定的評価の値は、同程度か下がっている結果となった。「読書」は、読解力や想像力、思考力など児童につけたい大切な力の向上につながる。来年度も、さらに職員が意識して、児童が読書する機会を設定し、学校司書や図書ボランティア、委員会と連携のもと環境を整え、家庭とも連携しながら、読書に取り組む習慣や本に出合う機会を設けていきたい。

「学校の勉強はわかる」「学校の勉強は楽しい」「分からない勉強をしっかり教えてくれる」「学習のめあてをもち、あきらめず努力している」については、肯定的評価が88%を越えている。本校の研究「算数科」において、まず自分で問題と向き合い、図や絵を用いながら自分の考えを友だちと交流して学んでいく授業の取り組みの成果ととらえられる。また、朝の学習タイムでの継続した算数プリントの取り組みも児童の基礎学力の定着につながっている。

「学校での生活は、楽しい」の児童の肯定的評価は91%と高評価である。一方否定的評価の9%の児童を見守り支援する必要がある。生徒指導面では、ケース会議等を実施することにより、職員が情報を共有し、より良い支援の仕方を検討し、児童に働きかけることができた。あいさつ、言葉遣い、清掃活動等も含め基本的な生活習慣については、学校・家庭・地域が連携して児童を育む取り組みを今後も継続していきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校評価の項目を経年比較することで、教育活動等についてより丁寧に検討されようとしている姿勢に敬意を表する。

今年度も、工夫をされて学校運営がなされたと推察されるが、校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に様々な教育活動を実施できた点は大いに評価できる。HP 等を用いて日頃から積極的な発信が行われていることで、学校の姿勢がうかがえる。

子どもたちの力を伸ばすため、教職員の資質向上に継続的に努めており、「学びに向かう力を育てる」というテーマで研修を深められている。子どもたちの iPad を用いての、プレゼンテーション能力の向上には驚いた。情報モラル教育とともに、今後も、子どもたちが主体的に考え、学んだことを生かせるような指導をお願いしたい。

重点的な課題と示された「読書」については、学校司書や図書館ボランティア、家庭との連携を図り、取り組みを進めていただきたい。本から得られる知識、本から学び取る力を育成してもらいたい。

学校支援ボランティア活動については、積極的ににかかわる機会を作っていただいていた。継続して子どもたちと関わることで、つながりができると考える。「ボランティア通信」を発行していただき、保護者に活動を知ってもらえたことは大変うれしい。今後とも、地域での子どもたちの安全安心についても、関係機関と連携・協力を図り、学校・家庭・地域が一体となって、児童の育成に努めてまいりたい。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
教育目標 教育方針	教育目標及び教育方針、学校重点目標が、児童や地域、学校の実態や、教育課題に即応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「けやき台小学校が好きだ」の肯定的評価は去年より約4%数値が下がるものの91%と大変良好である。しかし、否定的評価の児童が、9%存在する。</li> <li>今年度は、4年ぶりにほとんどの行事が行えた反面、日々の生活や学習にゆとりがなくなったことが影響している可能性が考えられる。</li> <li>・コロナがあげ、登下校の見守り隊、かたつむりさんによる読み聞かせ、がんばりタイム、音楽ボランティア、授業におけるゲストティーチャー、学校ボランティア等、様々な場面で学校支援ボランティアと連携を取り、地域の方々や保護者の協力を得ながら、教育目標の達成に向けて取り組みを進められた。</li> <li>・学校行事や学級会など、各場面で児童を目標に立ち返らせ、意識付けながら取り組めた。学年、クラスの目標をより意識して取り組むことで、それぞれの努力事項を意識した教育活動が行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が元気に、ゆとりをもって取り組んでいけるように、学校行事、学年行事など内容の見直しと精選を行う。</li> <li>・毎時間の児童の学習の様子を、進度を考えるとともに、子どもたちがわかる、楽しい、わくわくするような授業づくりを学年で協力しながら行っていく。</li> <li>・今後も、学校・家庭・地域の連携を密にし、学校教育目標の達成に向け、クラスの実態や児童の様子を担当だけでなく学年、学校全体で共有し、児童を中心に考えた教育活動を展開していく。</li> <li>・キャリア教育の視点からも、学校、学年、クラスの目標を意識し、一年を通して各教科学習や特別活動、学校行事等の各場面において、児童に目標を意識させたり、振り返らせたりする機会を継続して設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが「小学校が好きだ」「学校が楽しい」と感じられる場を作ることが大切である。</li> <li>・今後も子どもたちの意欲や達成感を大切にした教育活動を進めてほしい。</li> </ul>
	めざす児童像、教師像、学校像の具現化に向け、本年度の学校重点目標を意識した指導ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活は楽しい」の児童アンケート結果が肯定的評価は92%。高評価であるものの、「あてはまる」が減少し、「ややあてはまる」の値が、約3パーセント増加している。</li> <li>・本校の研究「算数科」だけでなく、「人権教育」「特別支援教育」「生徒指導」「情報教育」「外国語科」等、計画的に職員研修を持ち、資質・指導力向上に努めることができた。</li> <li>・「めざす児童像、教師像、学校像」を意識し具現化を図るため、教師間の連携を密にするとともに、保護者・地域への協力を得ながら学校全体で子どもたちを見守っていく必要がある。</li> <li>・めざす児童像にある、あいさつに関して、さらに継続して取り組んでいくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しくない」と回答している児童の見守りを行う。</li> <li>・教師が、特別活動を意識し、児童が主体的に楽しい学校づくりをできるよう働きかける。</li> <li>・業務改善に努め、教師の授業研究・教材開発の時間を確保する。子どもたちが勉強するのが楽しくなるような魅力ある授業づくりに一層努める。</li> <li>・次年度も校内で若手の授業づくり研修を続けていく。</li> <li>・今年度のデータを来年度の指導に活かすことができるよう共有ファイルに保存し、学びの継続と業務改善に取り組む。</li> </ul>	
教育課程	教育課程の編成(週時程・日課表・行事等)は適切である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「週時程・日課表等」について肯定的評価が、昨年度100%から今年度92%へ低下した。行事・授業内容等コロナ禍以前のものに完全に戻り、移動教室の増加、児童への生徒指導上の聞き取りの時間等、時程にゆとりが必要と感ずることがあった結果であると思われる。</li> <li>・年間計画がコロナ禍以前の配置に戻った。運動会、音楽会、水泳指導、連音、社会見学、学年活動、児童会活動等、全ての行事を実施することができた。</li> <li>・「年間計画・学校行事の内容及び時期」について、肯定的評価が、昨年度90%から今年度59%へと大きく減少した。2学期に運動会と音楽会と大きな行事の連続であった。そのため、3学期に社会見学に行く学年が多数あり、学校が落ち着いた印象があったと考えられる。</li> <li>・99%の児童は達成感を味わうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の教室の移動時間を確保し、授業の開始時刻を意識して取り組む。</li> <li>・学校行事や学年行事、社会見学など、職員、児童がゆとりをもって取り組んでいけるよう、年間計画を行い、行事の削減や内容の見直し、縮小に取り組む。</li> <li>・来年度の年間計画を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等、先生方の仕事が忙しすぎないことを心配する。</li> <li>・運動会の午前中開催、PTA 演技のカット等、変更して良かったところは継続して行ってほしい。</li> <li>・行事を通して、子どもたちは大きく成長できる。</li> <li>・iPad が完備され、子どもたちの学習環境も様変わりする中、今の時代に応じた教育活動が進められるように、今後も計画して行ってほしい。</li> </ul>

	各教科・領域における授業時数は適切に確保できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「各教科領域における年間計画の内容及び時間は適正」についての肯定的評価の値は、昨年度100%から今年度94%と6%減少している。</li> <li>特別の教科道徳や中学年、高学年の外国語活動、外国語科、情報教育等新しい教科、教育について研修を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間授業時数を意識した行事計画を行っていく。</li> <li>各教科の年間指導時数を常に把握しながら、児童の理解度、スピードに合わせた授業計画、授業時間確保をしていく。</li> <li>基礎基本の定着と、思考力、主体的に取り組む力(粘り強く学習に取り組む力、学習調整力)を伸ばせるような授業改善に今後も努めていく。</li> </ul>	
学習指導	各教科の基礎的・基本的な内容を確実におさえ、評価の基準を定め、指導方法を工夫して理解の徹底を図ることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は93%で高評価である。</li> <li>職員アンケートにおいても、この項目における肯定的評価が95%と高評価である。計画的で目標を明らかにした授業、指導と評価を一体化した授業が行えている。</li> <li>学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の研究「算数科」の授業研究・研修を今後も続け、問題を解く過程を説明していく対話的活動を取り入れながら、思考力を育成する授業に取り組んでいく。</li> <li>読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。</li> <li>学びの基礎である基本的な計算力や漢字の定着を目指して、計算練習・漢字練習の時間や補充学習の時間の確保を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の授業研究を中心に、先生方が共通理解しながら学校全体で取り組まれていることが、子どもたちの力に結びついている。「楽しい授業」「よくわかる授業」を今後も追求してほしい。</li> <li>教育活動全体で、子どもたちが活躍する場面を増やし、今後も意欲や達成感を感じられるように取り組んでほしい。</li> <li>学校は、「学習の楽しさ」「学習する意味」を教えるところだと思ふ。決して「答えや正解を教える場」ではないので、そのような教育を今後も続けてほしい。</li> </ul>
	確かな学力を身に付けさせるように、自ら学習する意欲を高める、工夫ある授業づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「学校の勉強は楽しい」は、肯定的評価が88%で、昨年度並み。保護者アンケートの「子どもは前向きに授業に取り組んでいる」の肯定的評価は昨年度100%から今年度は97%。高評価であるが、3%ダウンに注視する必要がある。職員アンケートの「工夫ある授業づくり」について肯定的評価は昨年度100%から今年度92%へと高評価ながらも低下している点は考えていく必要がある。</li> <li>⇒今年度からすべての学校行事、学年行事がコロナ前の状況に戻り、行事のための準備、生徒指導事案対応等、放課後の教師の教材研究、教材づくりの時間が不足している現状がある。</li> <li>毎週火曜日、学年の打ち合わせの時間を取り、行事や授業について学年で共通理解しながら進めることができた。</li> <li>大型モニターに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトやドリルノート用い、調べたことをまとめて発表したり、児童同士で考えを交流するなど、授業においてiPadを効果的に使用できている。</li> <li>「家庭学習に自主的に取り組む」においては、肯定的評価が、保護者86%、児童91%と高評価であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や学年行事など、ゆとりのある取り組みとなるよう、見直し及び縮小することで、教材研究、授業づくりに費やす時間を増やす。</li> <li>児童が思わず引き込まれる、考えたくなる、熱中できるような授業を展開できるよう、校内や学年でさらに授業研究に取り組む。</li> <li>来年度も継続して、若手教員の育成に向けて、学年を中心に授業交換や授業参観を行う学ぶ場を設ける。また、授業研究に取り組み積極的に授業公開を行っていく。</li> </ul>	
	個々の児童の到達段階の把握に努め、一人ひとりの基礎学力づくりに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生たちは分からない勉強をしっかり教えてくれる」は、昨年と同程度で、肯定的評価が96%と高い。</li> <li>各教科において、授業のめあてとふりかえりを意識して学習指導に取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「がんばりタイム」を個々に応じた指導を行えるように実施し、児童への指導体制と内容を整える。</li> <li>今年度の児童の実態を次年度に引き継ぎ、児童一人ひとりに有効な指導を続けられるようにする。</li> <li>ふりかえりを、自己調整力に結び付けて、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。</li> <li>ITC を効果的に使い、個に応じた最適な学びを実現させていく。</li> </ul>	
	夢を持ち、挑戦する意欲を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他者と協力・協働しながら粘り強く取り組む態度の育成」についての項目は、三者とも、肯定的評価が95%以上で高評価である。</li> <li>総合的な学習の時間や道徳科、キャリアノートなど各学年で計画的に、自分を見つめ振り返ったり、未来について考えたりする時間を持つ事ができている。</li> <li>子どもたちの自治的、自主的な力の育成を目指し、全学年で学級会活動に取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会や委員会活動、学級活動等において、児童が主体的に自主的に学校生活を楽しくするための企画ができるよう支援する。</li> <li>今後も継続し、授業だけでなく、学校行事、クラスの当番活動や係活動、高学年の委員会など、場面ごとに、めあてとふりかえりを大切にし、挑戦できているか、最後まで取り組めたかを考える機会を通して達成感を味わわせていく。</li> <li>一人ひとりが大切で必要な活動を行っていることを認め合い、「自己有用感」を感じさせていきたい。</li> </ul>	
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づき、校長・教頭の指導のもと、全職員が連携し、問題行動や不登校、いじめ等の問題に組織的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三者評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。</li> <li>いじめ等の緊急の指導事案、不登校児童、児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。</li> <li>今年度も、職員打ち合わせの場で、児童交流をおこない職員の共通理解を図ることができた。</li> <li>ケース会議を実施し、SSW・SC・指導補助員とともに児童に対し、よりよい支援の仕方を検討している。</li> <li>携帯・スマホ・SNS等の問題について、1～6年生まで発達段階に応じた学習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行う。</li> <li>今後も継続して、問題行動や対応事案等、指導内容等を諸対応メモにまとめ、回覧し、関係職員、教員全体で共通理解を図る。</li> <li>学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。</li> <li>今後も、SSW・SC・指導補助員や関係機関との連携を深め、児童に対し様々な方面から支援の方法を検討していく。</li> <li>携帯・スマホ・SNS等の問題についての指導については、今後も発達段階に応じて全学年で継続して指導を続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の問題については、中学校や各関係機関と連携をとって対応していただきたい。</li> <li>地域で子どもたちと出会う時にも、気持ちのよいあいさつが広がることが増えたと感じる。</li> <li>一年生の見守りの後は、子どもたちが安心して挨拶してくれる。知っている人には、安心して声をかけてくれる様子がかかぬ。</li> <li>「あいさつ」を増やすためには、児童会等、子どもが主体となってやるのが大切だと感じる。</li> <li>授業のはじめと、終わりのあいさつ、ご飯を食べる前、食べた後のあいさつ、いろいろな挨拶についても、しっかりと声で言えるような指導を大切にしていきたい。</li> </ul>
	あいさつや清掃、その場に適切な言葉遣いなどの基本的な生活習慣・マナーを確立するように指導ができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつ」に関するアンケートの肯定的評価は、職員54% (昨年度74%)、保護者85% (昨年度84%)、児童89% (昨年度92%)となり、三者に意識の開きがある。⇒職員に関しては、「校内でも挨拶ができる児童」を目指し取り組んでいるため厳しい結果となったことも一因と考える。児童アンケート評価が下がっていることに対しては、対策が必要。</li> <li>登下校中のあいさつができる児童は増えてはいる。(保護者アンケート結果、地域の声)</li> <li>「愛ありがとう集会」を通して、「感謝」や「あいさつ」の意義を考えることができた。子どもたちが実生活における「あいさつ」に意欲を持つ機会となった。</li> <li>「そうじ」は、職員89%、児童95%の肯定的評価と、高評価ではある。掃除の仕方「けやきモデル」を今年度から実施し、どの学年でも統一した掃除の仕方で行えた。</li> <li>「言葉遣い」については重点的項目の一つで、肯定的評価を90%以上をめざしているが、職員82%、保護者95%、児童84%の結果で職員、児童の評価は昨年度より低下している。</li> <li>その場に適切な言葉遣いで、好ましい人間関係を築いていく支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童と共にあいさつの目標を共通確認する。</li> <li>全職員が意識して、クラスや学年に関わらず声をかけることで、意識改革を促すなど、校舎内のあいさつもできるように全職員で積極的に取り組む。</li> <li>児童会や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつ」は、家庭が基本。学校だけでなく、家庭と地域も共に取り組んでいきたい。</li> <li>刻々と変化するネットやSNSの問題については、児童の実態をしっかりとらえ、積極的に指導してほしい。</li> <li>家庭との連携も大切である。</li> <li>iPadやスマートフォンなど、子どもたちが、その使い方の先に起こる結果を予想できるかが大切なので、間違った使い方をした結果どのようなことが起こるかということも、指導してほしい。</li> <li>登下校や地域でくらしの中でも、安全安心が確保されるよう、関係機関と連携し取組を進めていくことが大切である。</li> <li>近所との付き合いが希薄になる中、心を許せる人がいることが身近にすることが大切。地域のつながりを考えていかねばならない。子どもたちは、気持ちを許せる人に対しては、しっかりとあいさつできている。</li> </ul>
特別支援教育	特別な配慮や支援を要する児童の児童理解に努め、指導に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員のアンケートの「あてはまる」の値は昨年度より14%増えているものの、肯定的評価の値は昨年度97%から今年度89%に減少した。</li> <li>特別な支援を要する児童について、個別の指導計画や教育の支援計画を適切に作成し、それらを活用することができた。一方、希望者を対象に、活用方法や作成方法について研修会をもつことも大切。</li> <li>職員会議、職員打ち合わせの場で、児童の状態や情報を共有し、対応できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して、児童理解研修会や特別支援に関わる研修を計画的に行っていく。</li> <li>個別の指導計画の立て方についての希望研修会を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちのことを丁寧に理解し、計画的に取組を進められており、今後も同様の体制を整備してほしい。</li> <li>十分な人員の確保についても強く望む。</li> </ul>
	学校や関係機関、家庭との連携調整を図り、支援体制を充実させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会の設置、特別支援コーディネーターとの連携、職員研修の実施等、特別支援のための校内支援体制が整備され、適切な支援が行われた。</li> <li>教師の空き時間を活用した支援体制の配備と協力体制ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で児童の状況を共有し、支援が必要な児童に適切な支援が行えるように、全職員が協力し、今後も継続して体制を整えていく。</li> </ul>	

保護者・地域住民との連携	PTA・地域ボランティアとの連携により、教育環境整備を行い、地域の核となる学校づくりを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校・学年、ボランティア通信やホームページ等での情報発信」についての肯定的評価は、職員、保護者とも99%以上と大変高い。</li> <li>保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻繁に更新し、校長室前の大型モニターにその時々の子どもの活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取り組みを常時発信することができた。</li> <li>「地域の方々と一緒に勉強や活動することが楽しい」の児童の肯定的評価は89%で、昨年度より約5%低下した。</li> <li>校外学習引率ボランティアや図書貸出ボランティア等新たな取り組みも行った。</li> <li>年間計画に基づき、学校支援ボランティアと連携して教育活動を行うことができた。</li> <li>ボランティア通信を年3回発行することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの定期的な更新、ボランティア通信等、情報発信を継続して行う。</li> <li>学校支援ボランティアとの連携を深め、小学校の教育活動について保護者及び地域の方々をボランティアとして招き、支援していただく活動を今後も行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。</li> <li>ゲストティーチャーとの取り組みを、来年度以降もスムーズに連携が取れるようにデータ化して記録を残していく。</li> <li>ボランティアさんに手伝っていただいていることへの感謝の気持ちを教師から児童へ意識して伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPや学校だより、校長室前の児童の様子のスライドショー等を有効に活用し、学校の取組を積極的に発信されていることは大いに評価できる。</li> <li>今後も学校支援ボランティア等を積極的に活用してほしい。</li> <li>「ボランティア通信」は、保護者に活動を知ってもらい機会になり、保護者との横のつながりを持つ事ができた。感謝している。</li> </ul>
学力向上指導改善	「学びに向かう力を育てる」算数科の授業づくりを行い、「思考力の育成」に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が昨年度と同じ92%であり良好である。</li> <li>保護者の肯定的評価が92%から95%へ上昇したのは、参観日、オープンスクールの人数制限がなくなり多くの方に来校いただけたためと考察する。</li> <li>自分の意見や考え方を発表し、交流を重視した研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組み、その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの児童も自信を持って、「あてはまる」を選ぶように、学校全体で研究に取り組んでいく。</li> <li>学習に困難な児童に寄り添った課題意識を持ち続け、放課後やがんばりタイム等でフォローしていく。</li> <li>朝の学習タイムを継続し、基礎計算力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点的な課題と示された「読書」については、学校と家庭が連携した取組が必要である。</li> <li>簡単に知りたいことを検索できる時代であるが、本(出版物)から得られる知識の大切さを知ってもらいたい。</li> <li>いろいろなジャンルの本を紹介していくことで、「おもしろい」と感じる本に出合わせる。一度「おもしろい」と感じる事ができたら、子どもたちは、読み始めると思う。まずは、短い作品から読むことを勧めてほしい。</li> <li>「読みなさい」という声掛けだけではなく、教師も親も、隙間時間などに自分の好きな本を紹介したり、読み聞かせをしたりする、読んでいる姿を見せたりすることも大切。何かきっかけがあると、子どもは変わるので、興味を持たせ、やる気にさせてほしい。</li> <li>学力だけでなく体力や主体性など、総合的に子どもたちを伸ばすよう今後も取り組んでほしい。</li> </ul>
	すこやかな体づくりをめざした取り組みを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は91%であり良好である。</li> <li>今年度は、制限なく運動をする機会が増えた。</li> <li>体育委員会が大縄大会企画し、3学期の休み時間、多くの児童が外で大縄の練習に取り組めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、状況に対応しながら、体育委員会の児童を中心に、大縄大会など積極的に運動に取り組める活動を企画していく。</li> <li>なわとびや鉄棒カードを作成し、休み時間や放課後にも、目標をもって意識的に運動に取り組めるよう計画する。</li> <li>保護者に対して、学年で取り組んでいる体育の内容や運動について知らせる。</li> </ul>	
	自主的により良い学校づくりに取り組もうとする児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三者評価とも、肯定的評価が90%以上と良好。一方、児童アンケートの否定的評価の値が、昨年度2%から今年度5%に増えていることは注視する必要がある。</li> <li>一年生を迎える会、けやぎネス、運動会、6年生を送る会、感謝の集い等行うことができた。</li> <li>学年、学級目標を意識し、特別活動での話し合い活動、係活動や委員会活動を通して、より良い学級や学校を作ろうとする意欲の育成が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「より良い学校、より楽しい学校」にするために、児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等を支援していきたい。</li> <li>今後も、児童が自主的に取り組める活動の可能性を考え、年度初めに年間予定を明確に立てておく。</li> <li>学級会の持ち方、話し合い活動の進め方を特活委員会を中心に校内で職員研修をしたり、授業公開をしたりし、児童の話し合い活動の推進に努めたい。</li> </ul>	
	読書好きの児童を育てることができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年3年間を比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」の肯定的評価は、82%→87%→84%。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価は、60%→63%→62%。職員77%→93%→73%であった。引き続き、本校の課題ととらえられる。</li> <li>昨年度より、毎月23日の「家族読書の日」を全校で徹底し、宿題を読書とした。</li> <li>今年度は、毎学期、読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。</li> <li>学年が上がるにつれ読書する時間が取りにくい傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。</li> <li>どの学年も、週に一度は図書室に入室するように声かけをする。(本に出会う機会づくり)</li> <li>今後も、学校と家庭とが連携する。毎月23日の「家族読書の日」の意識を徹底し、宿題などで読書を出し、本を読む時間を確保していく。家族読書の日には、どんな本を読んだのか確認したりして、読書力向上を促す。</li> <li>国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。</li> <li>学校図書と協力して、学年文庫の充実を図る。</li> </ul>	
人権教育	一人ひとりが大切にされる集団の中で、つながりを深め、自尊感情を育み、確かな学力と差別を許さない人権意識を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目においても、職員、保護者の肯定的評価は昨年度と同程度95%以上と高い。</li> <li>ハートフル参観、学級集会を持つ事ができたが、学級集会の参加者が少ないことは、課題である。</li> <li>学年で教材研究を進め、特別の教科道徳の学習を進めることができた。</li> <li>人権教育について、職員研修を持つ事ができた。</li> <li>今年度、職員が意識して、学校生活の中で、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊感情を高める声掛けができた。また、肯定的評価の言葉がけを意識し、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハートフル参観を軸とし、今後も、学級集会の場でも保護者への啓発を行っていく。</li> <li>今年度の参加型学級集会のように、よりよい学級集会、学年集会も視野に入れ、集会の持ち方を検討していく。</li> <li>日ごろからの児童との信頼関係づくりを大切にする。</li> <li>高め合う職員集団作りを継続して行う。</li> <li>各学年で、授業の指導案やワークシート等をデータ保存し、前年度の指導をもとに積み上げていく。</li> <li>来年度も、講師招聘や現地研修などを計画し、人権研修、不登校児童対応のための職員研修を継続して行う。</li> <li>LGBTについての指導を充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育については、一人ひとりが大切にされる地域や社会の実現のためにも、積極的に取り組んでほしい。保護者・地域とともに学んでいきたい。</li> </ul>
保健・安全管理	校内では施設点検を定期的に実施し、校外では保護者・地域と連携して、児童の安全を守る取り組みができている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、職員評価とも、肯定的評価が90%以上と大変良好である。</li> <li>様々な想定で避難訓練を実施することができ、職員、児童共に訓練を通して、安全を確保するための方法について学んでいく機会を持てた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室と担任の連携を密に行い、保護者への連絡を大切にしている。</li> <li>今後も、定期的に安全点検、避難訓練を行うことで、危険予測、回避能力を養っていく。</li> <li>来年度、外部講師を招聘しての、不審者対応研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 17集会では、4年生の学習の取り組みを見て、iPadの活用力に驚いた。2年生、3年生と共に防災について体験活動ができて良かった。</li> </ul>

## 6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
10月21日	運動会アンケート実施
11月23日	音楽会アンケート実施
12月1日	学校評価 児童・保護者・職員アンケート実施
1月10日 1月29日	学校評価、児童・保護者・職員アンケートの分析検討 学校評価職員会議
2月2日	校内図工展アンケート実施
2月10日 2月19日	学校関係者評価委員会の学校関係者評価 学校関係者評価を受け、次年度へ向けた方策検討

## 7 学校関係者評価委員会(学校地域運営協議会)の活動について

時期	内容
6月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営方針</li> <li>地域運営協議会の構成と年間計画</li> <li>昨年度の学校評価まとめと今年度学校評価について</li> </ul>
10月7日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、学習状況等について</li> <li>学力向上改善プランについて</li> </ul>
10月21日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会参観及び意見徴収</li> </ul>
11月23日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会参観及び意見徴収</li> </ul>
2月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内図工展の参観及び意見徴収</li> </ul>
2月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート結果・学校自己評価・総合的な学校評価について報告と次年度への改善内容について</li> <li>今年度のまとめ</li> </ul>

## 8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	PTA 総会・ホームページ	学校評価結果を踏まえて、今年度の目標や指導方針を説明	
適宜	学校便り・学校掲示板	学校評価に基づいた指導について、適宜周知するとともに、自己評価結果及び改善策について保護者に配布(3月)。	
3月	PTA全体役員会・ホームページ	自己評価及び関係者評価を公表	

